

平成 31 年度（2019 年度）

東京都教職員研修センター紀要

第 19 号

令和 2 年 3 月

はじめに

東京都教職員研修センターでは、都内の公立学校が直面する教育課題の解決を図る「教育課題研究」に毎年取り組み、その内容を紀要にまとめ、各学校における教育課程及び学習指導等の改善・充実を支援しています。

いよいよ令和2年4月より新学習指導要領が小学校において全面実施され、順次、中学校、高等学校及び特別支援学校へと広がっていきます。今回の改訂の趣旨を実現するには、教員一人一人が自らの資質・能力を向上させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、質の高い学びを具現化していく必要があります。

こうしたことを踏まえ、当センターは今年度、以下の研究及び調査に取り組みました。

第1は、「児童の情報活用能力の育成（2年次） — 小学校段階におけるプログラミング教育の推進を通して —」です。この研究では、学習の基盤となる資質・能力の一つである情報活用能力の育成を図るために、ICT等を活用したプログラミング的思考を育む授業実践例とともに、各学校の実態に応じたプログラミング教育に関する全体計画及び年間指導計画の作成方法及びその作成例を開発しました。

第2は、「生徒一人一人の学びを支える指導及び支援に関する研究（1年次） — 読み書きの基礎につまずきがある生徒の『分かり方の特性』に応じた指導及び支援の工夫 —」です。この研究では、東京都教育庁指導部が進めている「学びの基盤」プロジェクトと協働して取り組み、都立高等学校における生徒一人一人の学習上のつまずきと認知特性を把握できる「ステータスシート」（教員用及び生徒用）を開発しました。あわせて、「ステータスシート」を指導・支援に生かす具体的な方策として、座席表による支援例や高等学校国語科の学習指導事例も作成しました。

第3は、「第14回 東京都公立幼稚園・こども園5歳児の運動能力に関する調査」です。これまで、当センターは、幼児教育の充実及び小学校教育との円滑な接続・連携を図ることをねらいとして、昭和55年度から3年ごとに調査を実施してきました。今回も幼児の運動能力の実態及び幼児の遊び、健康・体力づくりに関する各園の取組について調査し、幼児の運動能力の変容を把握・分析しました。

各教育委員会及び学校・園におかれましては、本紀要に掲載した研究の成果及び調査の結果を教職員間等で共有していただき、各学校・園における教育課程、学習指導等の改善・充実に向けて広く活用していただければ幸いです。

結びに、当センターの教育課題研究の推進に当たり、関係教育委員会をはじめ、検証授業及び調査等に御協力いただいた学校・園の先生方、多くの御示唆や御助言をいただいた講師の方々に御礼を申し上げます。

令和2年3月

東京都教職員研修センター所長 宇田 剛

目 次

1 児童の情報活用能力の育成（2年次） — 小学校段階におけるプログラミング教育の推進を通して —	3
2 生徒一人一人の学びを支える指導及び支援に関する研究（1年次） — 読み書きの基礎につまずきがある生徒の 「分かり方の特性」に応じた指導及び支援の工夫 —	49
3 第14回 東京都公立幼稚園・こども園5歳児の運動能力に関する調査	73
参考文献・資料等	101
研究に携わった所員・講師等・教員研究生・研究協力校・調査協力園	102